

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

---

# 日々が未来へつながる ～通信教育部での学修を終えて～

---

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **高橋 紗希**

---

## はじめに

私は2013年4月に社会福祉学科へ入学し、2年間の学修をへて2015年3月に卒業しました。その間に妊娠、出産を経験しましたが、周囲の方々のサポートのおかげで休学することなく実習をさせていただき、国家試験にも合格することができました。通信教育部で学ばれている皆様は、多くの方が仕事や家事、育児、介護など、本当に様々なご事情を抱えながら努力されています。実習を無事に終わられるか、学修を継続できるか悩まれる方も多いのではないかと思います。私の体験談が、ほんの少しでも参考となれば幸いです。

---

## 妊娠・出産と実習、その先に見えたもの

私は元々NPOで若年無業者の就労支援の仕事をしており、より深く学びたいと考え通信教育部に入学しました。仕事の合間をぬってスクーリングに出席していましたが、入学1年目の6月に妊娠が発覚。大きくなるお腹を抱えながら、このまま進級するか休学するべきかとずいぶん悩みました。最終的には家族や通信教育部で出逢った学友たちが背中を押してくれたこと、事務局の方々の温かいサポートのおかげで進級することを決心しました。ただし、多くの方々にご迷惑をおかけしてしまう分、提出課題や実習に臨む姿勢については今まで以上に本気で取り組み、どんなに辛くても国家試験には一発合格しよう、と覚悟をもって日々を過ごしました。

出産予定日が2月上旬だった為、それまでにすべてのスクーリング、レ

ポート、実習課題などを終わらせ、次年度のレポートについてもできる限り手をつけていました。実習日程は最も遅い10月にさせていただき、国家試験については11月からの3ヶ月間で集中的に勉強することにしました。

実習は地元の社会福祉協議会で実施しました。実は入学1年目、妊娠7ヶ月の頃にも3日間ほど体験実習をさせていただいており、産前産後という事情をご理解いただいた上で快く受け入れてくださいました。実習期間中は毎朝生後6ヶ月の娘を保育園に預けてから出勤し、休憩時間のうちにできるだけ記録をまとめていました。ハードな毎日でしたが、それ以上に得たものが多く、「実習を終えるのが勿体無い」と思えるほど充実した1ヶ月間になりました。

実習中は感銘を受けたり感動したりする場面が多くありました。例えば、東日本大震災で被災し自分以外の家族を全員亡くされた高齢女性より、「人生で一番辛いのは“さみしさ”が心を覆った時。さみしさを解消できれば、人生の辛さの半分はなくなるんじゃないか」という話を伺いました。人間は支え合い、つながり合うからこそ強く生きられるのであり、改めて地域の中でネットワークを構築していくことが、なぜ大切であるかについて、じっくりと考えることができました。その他にもここには書ききれないほどの気づきや学びがあり、そのすべては実習を通して出逢った職員の方々、地域住民の皆様から教えていただいたものです。社協は、地域のあらゆる社会資源が集まる福祉拠点であり、それらをつなぐ連結役としての機能が非常に重要だと感じました。そしてそれは私自身が“こうありたい”と描いていた福祉観と重なり、実習を行ううちに自分も社協で地域福祉の推進に尽力したいと思うようになりました。

## 人生が変わった2年間

---

前職は出産前に退職した為、実習後は受験勉強の合間に転職活動も行い

ました。実習をやり遂げられたことが良い刺激と自信になり、とにかく社会福祉士を取得して社協職員として活動している自分をイメージしながら辛い冬を乗り切りました。

受験勉強をする上では、自分に合った学習方法を見つけることがとても大切です。私は参考書や問題集がほとんどはかどらず、12月上旬に赤マル福祉というインターネット上で過去問を解くスタイルに切り替えてから格段に集中力が上がり、点数に結びつきました。ギリギリでしたが運良く合格、転職先もご縁をいただき、今年の4月からは社会福祉士として他市の社協に勤務しています。

通信教育部で学んでいる間、スクーリングや国家試験対策講義に出席するたびに先生から「社会福祉士に合格したら人生が変わる」と教えていただいていた。当時は半信半疑でしたが、無事に合格し転職した今、身をもってこの言葉を実感しています。そして、決して資格取得はゴールではなく、新たな道のスタートラインに立てたのだということも感じました。実習や受験勉強だけではなく、通信教育部に入学してからの2年間で積み重ねた学習の日々、尊敬する学友たちや諸先生方、地域の方々との出逢いが、新たなステージへと背中を押してくれました。ただただ、感謝の気持ちでいっぱいです。これからは地域福祉に従事しながら恩返ししていきたいと思います。

## おわりに

---

通信教育部での学習や受験勉強を振り返って、諦めずに学習を続けて本当に良かったと心から思っています。自分との孤独な戦い、母として、妻としての自責の念に涙が出る日もありましたが、迷い悩み抜いた日々があったからこそ新たな道を進む上での糧と自信になりました。

在校生の皆様もたくさん悩まれながら学習を進めておられると思いま

す。周囲のサポート体制やご事情にもよるかと思いますが、可能であるならばぜひ諦めずにご自分のペースで学習を継続していただきたいと心から祈っています。応援しております。

最後になりましたが、この2年間に出会い関わってくださった全ての方々へ感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## スクーリング・アンケートより(2)

アンケートよりスクーリング講義の感想を抜粋いたしました。

### ●福祉行財政と福祉計画

- ・佐藤先生の説明は明快でした。これまで聞き流していたニュースの内容を正確に把握するための基礎的知識を身につけることができました。自分が関わる職場に必要な社会福祉制度と、国や地方自治体の福祉計画との関連性を理解することができました。特別養護老人ホームでの実習を目前に控えていますが、自分が住んでいる市の地域福祉計画や老人福祉計画をしっかりと読み直しておこうと思いました。
- ・福祉の財政については量が膨大でしたが、先生の話し方のテンポと工夫で、とても頭に入りやすかったです。福祉という、人の幸せのためにどれだけ税金が使われているか、その仕組みについて学習でき、今まで勉強してきたことに対しての裏づけともなる学習でした。重要な点を強調して説明していただき、参加してよかったです。

### ●特講・社会福祉学1(介護保険と社会福祉士の課題)

- ・改めてソーシャルワークの仕事の大切さや難しさを認識しました。自分が良かれと思って行ったことでも、相手を傷つけてしまうこともあることや、さまざまな専門職の価値などを把握しておく必要があることを実感させられました。
- ・「社会福祉士は多職種との接着剤である」と先生は表現されていました。ところが現場ではその多職種とぶつかってしまい、ストレスを感じることもあります。利用者を思う気持ちは同じなのに互いを尊重できていないこと、福祉士の本来の役割を發揮していけたら、組織は結束でき、支援の相乗効果が得られるのではないかと考えさせられました。

### ●社会福祉援助技術演習A

- ・ソーシャルワーカーの基本的な態度や心構えについて教えていただきました。ソーシャルワーカーの「売り」は自分自身であること、自分を知ること、自分を好きになることから始めることが必要だと感じました。

### ●社会福祉援助技術演習B

- ・「社会資源はソーシャルワーカーの財産である」という先生の言葉を聞いて、本当にその通りだと思いました。今回の演習Bを受講して、まだまだ自分が勉強不足であることを強く実感しました。まずは今後の勉強を頑張っていきたいと思います。